

## 会 議 要 旨

会議名	第 2 回町田市第二次野津田公園整備基本計画懇談会	
開催日時	2013 年 3 月 28 日（月）午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分	
開催場所	町田市役所 2-2 会議室	
出席者	委員	金子忠一、中川義英、三ツ谷洋子、河井誠、太田真由美、奥村憲雄（6 名、敬称略）
	事務局	※都市づくり部長、※スポーツ担当部長、公園緑地課長、※スポーツ振興課長、公園緑地課 5 名、スポーツ振興課 1 名 ※：事務局として出席 株式会社東京ランドスケープ研究所 5 名
公開・非公開	公開 5 名	
傍聴人数	5 名	
議題	議題 1 野津田公園の魅力的な公園づくりに向けた第二次野津田公園整備基本計画に関する課題について	
次第	1. 前回議事録の確認 2. 第二次野津田公園整備基本計画に関わる課題について 3. 日程調整	
資料	1. 基礎資料（町田市のみどり、土地利用、アクセス、市内スポーツ施設、上位関連計画、野津田公園現況、自然環境調査に関する中間報告等） 2. 第 1 回懇談会要旨録	

## 1. 開会挨拶

(事務局)

- ・ 開会挨拶

(会長)

- ・ 傍聴者の入室許可を全員に了解をとり、了承された。

## 2. 前回議事録の確認について

(会長)

- ・ 前回の議事録の内容について修正が無いことを確認した。また、議事録の署名を毎回指名することとなっていたが、議事録を全員に配布し確認して頂くことで、了承された。

## 3. 第二次野津田公園整備基本計画に関わる課題について

&lt;発言要旨&gt;

(会長)

- ・ 前回の現地確認を踏まえ、日常的なもの、学術的なものを含め、野津田公園に対する思いや課題等を抽出したいと考えている。

(事務局)

- ・ 本日の議題である課題等の抽出における基礎資料として配布資料の説明を行った。

(委員)

- ・ 野津田公園整備に関わる経緯や経過を示した資料や説明に加え、地域の意見等を整理した資料が無く、資料不足である。
- ・ 上の原広場の工事等、行政と市民要望の整合が取れていないのではないかと。
- ・ 野津田公園は、スポーツや自然が楽しめる公園ということで、気持ちよく利用できる公園であるが、駐車場の有料化であることから、時間を気にしながら利用することになる。
- ・ 駐車場の有料化に伴い、路駐が増えている。

(委員)

- ・ 野津田公園の検討する上で、この公園は、住宅・公園・自然が切り離されていない公園であるため、公園周辺域を含めて検討すべきである。
- ・ バスを利用する人は、最寄りのバス停が終点の野津田車庫を利用することとなるが、これらの人は住宅街を抜けていることが多い。
- ・ 特に、ゼルビアの試合後、チームが敗戦した時、サポーター等のマナーに不安が有り、周辺住民等に負担をかけるのではないかと。

(委員)

- ・ 野津田公園を検討するにあたり、公園に人を集めるのではなく、集まってきた人にどんなサービスが提供できるのかについて考える必要がある。
- ・ 駐車場の有料化について、地域の人が小さい子どもをつれて遊びに行く公園は野津田公園であり、駐車場の有料化により気軽に遊びに行きにくくなった。
- ・ 自然環境について、特に手を加えず今ある姿の自然をそのまま残す形でよいと考える。
- ・ これだけ広い公園なのにトイレが少なすぎる。

(委員)

- ・ 地域の人にとっては、あえて交通の利便性を高める必要が無いのかもしれないが、遠くから来た人には、やはり交通の利便性は必要。
- ・ 地域に住んでいる人の意見やアンケートがあれば是非ほしい。

(委員)

- ・ この規模の公園で駐車場の無料だということに違和感がある。駐車場の有料化は近年の流れである。
- ・ 公園利用者が歩いてこないということは、遠くの人でも車でくる。そうすると今の駐車場台数では足りなくなる。
- ・ 公園利用者のターゲットについて、遠方から来る人とするか、近隣の人を主にターゲットとするのか、はっきりとさせたほうが良い。

- ・ 小野路交差点からのアクセスだけとなると渋滞が起きる可能性が大きい。芝溝街道からのアクセスを検討する必要があるのではないか。
- ・ 起伏に富んだ地形や大規模な面積を持つ公園で、障がい者や高齢者も楽しめる公園は近隣では昭和記念公園や武蔵丘陵森林公園のみである。野津田公園も全ての人が楽しめるような周回園路、園内交通手段やサービスがあっても良い。
- ・ 園内のサイン計画が分かりづらい。
- ・ 小山田緑地とは違う野津田公園らしさを出すために起伏に富んだ地形をどう活かし、修景をどうしていくかを考える必要がある。

(会長)

- ・ 公園として魅力をどう高めていくのかを検討する必要がある。(例えば、バラ園があるのにバラ園としての施設の魅力は十分ではない。)
- ・ 会長より委員の意見について、要点の説明。
  - ・ 野津田公園のアクセスが不十分で利便性が悪いということは事実だが、公園利用のために利便性を高めなくてもよい。
  - ・ 自然保全については、ボランティアの方々と協力してやっていく必要があるのではないか。
  - ・ 貴重種について、書かれているが貴重種の有無に関わらず自然は残すべき。
  - ・ 市民プールはスポーツ施設に入らないのか(質疑)。

(事務局)

- ・ プールはスポーツ施設だが、今回は入れていない。

(委員)

- ・ 全体を考えると、管轄の有無によらず、なるべく網羅的に全体が分かる資料としてほしい。

(委員)

- ・ 公園の中の施設が公園緑地課の管理となるということは、駐車場の料金も公園緑地課が決めているという考え方でよいのか。

(事務局)

- ・ 町田市では公園管理や料金の設定については、公園条例によって定められている。

(会長)

- ・ 一通り意見を出して頂いた意見をまとめると「心地よい」「気楽にいける」「楽しめる」公園として、施設をどうするかということかと考える。これは運営上の問題が大きい。
- ・ これらを踏まえ、野津田公園をどんな公園にしていったらよいか皆さんから意見を頂きた

い。

(委員)

- ・ 大きな施設としては、陸上競技場等があるため必要ない。
- ・ 気楽に楽しめるスポーツ施設があってもよい（例えば綱引きやロッククライミングのようなもの）。
- ・ 公園だから楽しめる、楽しみながら体が鍛えられるような公園が良いと思う。
- ・ 地域の歴史や風土を感じられるような公園づくりが必要なのではないか。
- ・ 自然環境の観点からは、自然環境を変えないような整備が必要。

例) 下草を全部刈るのではなく、虫の逃げこむような場所があっても良い。

上の原の臨時駐車場については、野津田近隣の人だけでなく、七国山の人々も臨時駐車場ではなく自然を守ってほしいとの意見もある。

- ・ 市民、ボランティア、行政がもっとタイアップすべき。

(委員)

- ・ 周辺地域の観点からみると上の原には逆に駐車場がほしい。野津田町内に違法駐車が増えたため公園内に駐車場を整備した方が近隣の環境上良い。
- ・ 公園内では散歩をしたいが、公園までは子どもを連れて行くので車で行きたい人が多いのではないか。
- ・ 公園アクセス等に関するアンケート調査を行う必要がある。

例) 「どこから野津田にきているのか」「駐車場は足りているのかどうか」「地元目線ではどうか」「公園へのアクセスは問題ないか」等

- ・ 七国山、薬師池、野津田をどうつなげていくか、どのようなつながりを持たせるかについても検討する必要がある。
- ・ 雑木林の維持管理方法、手法に対する理解をボランティアも含めてどうするかについて考えなくてはならない。

(委員)

- ・ 野津公園に対するヒアリングは、指定管理者のみではなく、野津田公園で活動をされてきた人もヒアリングも行ったほうがよいのではないかと思う。

(委員)

- ・ 集客施設は駐車場が必要だと思う。一方、自然を求めている人は駐車場はいらない。
- ・ 魅力が向上すればお金を払ってでも人は来るので、自然と施設をどうして行くのかを考えるべきではないか。
- ・ 近隣の人にとっての普通の自然と一般に来る人の自然のイメージは違う。公園である以上、整備されたキレイな自然であってもいい。また、その整備された自然を本当の自然として求めてくる人もいるのではないか。

(委員)

- ・ スポーツと自然の両立は難しいのではないかと思います。

(委員)

- ・ 野津田公園は、40haあり町田市でも一番大きな公園であるから、スポーツと自然の両立が可能。
- ・ 公園を検討するうえで、他地域とのつながり、七国山、野津田、横山の道等と連携させた広域的な視点も必要。

(委員)

- ・ スペースを検討していく上で、どんなときに、どんな場所で、どんなことが出来るかを想定して、なるべく利用者等が経費をかけずに楽しめるような整備をしていくべきではないか。
- ・ また、一般の人たちは、レクリエーションスポーツを色々なサークル活動の中で楽しんでいる人が多い。こういった人たちは自分達で器具を持ち込んで楽しんでいるが、用具等の貸し出しプログラムみたいなものがあれば、一般の人や地域の人でも楽しめるのではないか。
- ・ 多目的スペースを整備するにあたっては、ただ広場をつくるのではなく、利用を想定した上で、多世代が楽しめるスペースを検討すべき。
- ・ 自然環境について、どこまで残して、どこまで管理すべきか、線引きをどうするか、里山を地域の人々がどのように支えつつ守っていくかが重要。

(委員)

- ・ 交通については、個人の交通手段（車等）、公共交通、イベント時をどうするかについて考慮すべきではないか。通常時の交通システム等をイベント時に合わせる必要はない。
- ・ 公園だからこそできる園内移動手段があっても良いのではないか。（歩行支援のための道具や器具の貸し出しや移動手段のためのプログラム等）  
例）武蔵丘陵森林公園や昭和記念公園では、自転車の貸し出し等を行っている。
- ・ スポーツの場は生活文化の場の一部なので、生活文化の場としてどうしていくかについても考えるべきである。
- ・ 飲食の出来る場があっても良いのではないかと思います。スポーツをしない人も生活の一部として、公園に飲食を目的にして集り楽しむ事ができる。
- ・ こうしたことを踏まえ、開かれたスペースの使い方を検討すべき。

(会長)

- ・ 次回から自然環境、交通、スポーツ・レクリエーション、空間利用等の課題に絞って議論をすすめていければと思う。
- ・ 次回にむけて事務局にどんな資料が必要か意見を頂きたい。

(委員)

- ・ 野津田通信や野津田公園の運営協議会の資料（野津田公園をどのような公園にしたらよいのかについて書いてあるもの）。
- ・ 前の市長が言明されたことからどう変わってきているのかが分かる野津田公園の経過や会議内容についての資料。
- ・ 公園利用者のアンケートや野津田公園、学校、町内会、ゼルビア等の横の関係が分かるような資料。

(委員)

- ・ 町田ゼルビアの地域貢献活動はどのようなものがあるかを示すもの。

(会長)

- ・ 委員の皆様から意見を出して頂いたが事務局から何かありますでしょうか。

(事務局)

- ・ 次の3点を中心に議論を深めて行きたい。
  - ① 自然環境とスポーツ施設に防災の観点を加え、面的な整備をどうしていくのか。
  - ② 利用に向けてのプログラムや管理運営についてどのようなことが考えられるのか。
  - ③ 幅広い年齢層に支持されるにはどうしたらよいか等について検討。

(委員)

- ・ 野津田公園について、防災上、広域防災エリアはどの範囲となるか示してほしい。

(委員)

- ・ この公園を中心として、公園利用者誘致圏をどのあたりに設定するのか。  
例) Jリーグの運営をする場合、集客数をあげるため例えばエリアマーケティングとして、半径30km圏内を対象として、スタジアムをいっぱいにするには、何人に1人が来ればよいか等についての調査を行っている。

(委員)

- ・ 現在、ゼルビアでは駐車場を使わずに、バス等で近くまで来てUターンして戻るというシステムとなっているようだが、今後野津田公園へのアクセス等を検討いく上で、どのくらいの人がこのシステムを利用しているかが分かる資料。

(委員)

- ・ レストランのような飲食できる公園等の事例があれば参考になると思う。

(委員)

- ・ レストラン等を考えると、夜間の利用をどうして行くのかを検討すべきではないか。

(委員)

- ・ 駐車場料金の有無について検討すべきではないか。

(会長)

- ・ 次回に向けて、事務局は指定管理者等にヒアリングを行う予定となっているが、現段階においてヒアリング内容が分かる想定質疑等はあるか。

(事務局)

- ・ 今日の議論等を踏まえて、これから内容について検討したいと考えている。

(委員)

- ・ この懇談会に指定管理者に直接来て頂いて意見を聞くことは可能か。

(事務局)

- ・ この懇談会と計画の策定趣旨にはそぐわないので予定していない。

(委員)

- ・ 指定管理者は 1 社で継続的にずっとやっていくわけではなく、指定管理者は、何年かに一度の定期的なスパンで変わるので、この場に呼んで、意見や考え方を聞くことはあまりこの場にそぐわない。

(委員)

- ・ 指定管理者によるアンケートの内容、方法等については、市と相談の上、内容の確定や実施をしているという確認を受け、事務局よりその通りであるとの返答がなされた。

(会長)

- ・ 今後の予定は、今日頂いた意見を基に、整備計画を検討していく上で課題を整理し、方向性を出していく事となるが、それに向けてご発言しておきたいことはあるか。

(委員)

第 9 回まで懇談会があるが、もっと具体的に懇談会の内容について示してほしい。

(会長)

次回の日程について、5 月の 14 日もしくは 21 日の午前中を想定しているが、なるべく早く事務局で日時の調整して連絡すること。

(都市づくり部長)

閉会挨拶